



栃木県市町村保健師業務研究会

保健師だより

発行
栃木県市町村保健師業務研究会
平成22年2月1日
第3号

会長あいさつ

栃木県市町村保健師業務研究会会長 斎藤 真理子（鹿沼市）

会報発行にあたり、ごあいさつ申し上げます。

本会の運営に当たりましては、関係各位と会員の皆様方のご支援ご協力に感謝申し上げるとともに、会員の皆様におかれましては、日々の保健師業務に加えて、新型インフルエンザ発生に伴ない感染防止や各市町での対応など何かと多忙な毎日とご推察いたします。

当研究会は、昭和54年に発足し昨年は満30周年という記念すべき年でありました。

平成21年度の会員数は、411人と年々増加し、市町数は30となり広域化しました。

保健師を取り巻く環境は、平成6年の地域保健法改正に始まり、介護保険法の施行、市町村合併などを受けて、市町村保健事業は急速に多様化してきており、保健師の配置は、高齢・児童・障害福祉部門、介護保険部門、人事部門等分散配置が進んでおります。

これらの環境の変化により、各部門保健師間の連携や地区活動の強化が求められるとともに、保健師教育の変化や世代交代による人材育成・資質の向上を図るという新たな課題も出てきております。

さらに、格差社会が進んでいるといわれており、住民の健康問題はますます深刻化することが予測されます。保健師業務は、地域の健康水準をあげることにありますので、今年度も、「資質の向上に務め、さまざまな分野で保健師機能を発揮しよう。」「変革の時代、保健師の『みる』『つなぐ』『動かす』力を強化し、社会の期待に応えよう。」というスローガンの元に活動を行っております。

また、会の活動として、平成19・20年度に実施した「乳幼児健康診査における母親支援等調査」について「第47回栃木県公衆衛生学会」「第49回全国国保地域医療学会」で調査研究班員が発表を行いました。

日々の業務や調査をまとめることには大変なご苦労もあると思いますが、業務を見直し、評価するうえでは重要なことであり、保健師活動の「みる」「つなぐ」「動かす」活動を行うためにも、それぞれの部署で、業務のまとめができることを期待いたします。

平成22年度には、関東甲信静地区の保健活動研修会（関ブロ）の開催県になりますので、開催に向け準備を進めておりますが、会員の皆様方のご協力をいただくことが多々出てくると思いますのでよろしくお願いいたします。



研究会活動報告

～保健師業務、技術の向上を目指して～

《研修・広報班》

研修・広報班 青木 きみ子（さくら市）

当班では、栃木県市町村保健師業務研究会規約第4条(1)に基づき保健師業務研修・その他技術の向上を目指して研修の企画・運営・評価を行っています。

今年度第1回研修は、「すこやかな子育てへの支援」～地域を見る保健師に期待すること～を計画しました。第2回研修は、『設立30周年記念講演会「保健師に伝えたいメッセージ」』として、保健業務の多様化・保健師の分散配置等保健師を取り巻く環境が大きく変わってきたなかで、時代の流れに適応しながらも保健師として忘れずに持ち続けるべきことやこれからどうあるべきかを考え学ぶ内容の研修を企画しました。

広報活動は、年1回「保健師だより」を発行し皆様にお届けいたします。会活動の周知、会員の声、情報の提供等役立つ広報を目指して発行いたします。会員の皆様の期待に応えられるよう今後も研修・広報班一同務めてまいります。

《調査研究班》

調査研究班 桜井 恭子（益子町）

私たち調査班は、保健師の日々の業務に生かされる内容の調査研究が良いということを念頭に置いて、調査の目的を、「保健事業の多様化や保健師の分散配置における連携の在り方についての課題を明らかにする」とし、2カ年で実施いたします。20年度に全国市町村保健活動協議会が全国規模で行った「多様化する市町村保健事業における保健師の在り方に関する調査」を基に、栃木県の市町の保健事業の多様化や、保健師の分散配置や連携の在り方などの状況を調査し、それらが保健師の意欲や意識に及ぼす影響などを全国と比較してみることも考えて現在、アンケート内容を検討しています。後日、アンケート調査を各市町に配布いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

栃木県市町村保健師業務研究会第2回研修会 設立30周年記念講演会 「保健師に伝えたいメッセージ ～市町保健師に期待すること～」

平成21年11月28日(土)、とちぎ健康の森大会議室において、栃木県市町村保健師業務研究会 第2回研修会 設立30周年記念講演会を開催いたしました。「保健師に伝えたいメッセージ～市町保健師に期待すること～」と題し、講師には平野かよ子先生をお迎えして開催した研修会の内容を一部ご紹介します。

『保健師の分散配置が進み、また業務が多岐にわたる今だからこそ、地域全体を「みる」「つなぐ」「動かす」という保健師活動の3要素を忘れてはいけません。

公衆衛生看護とは、「生命」「生活」「人生(生涯)」「生産」の総体であり、社会を形成する人々(公衆)を看護の立場から協働し、まもることが保健師の活動である。

我々保健師は、地域全体を視野に入れ、地域に根を張る活動をしていかなければならない。まず、地域に出向いて、会って、知って、関わっていくことはとても大切である。保健師の専門性を活かし、さまざまな人、さまざまな状況をつなぎ、「対人支援」と「地域づくり」を融合させることこそ、地区活動であり、保健師の原点である。』という力強いメッセージをいただきました。研修に参加された方はもちろん、参加できなかった方にも、この紙面をもって平野先生のメッセージをお届けできれば幸いです。

平野かよ子先生プロフィール

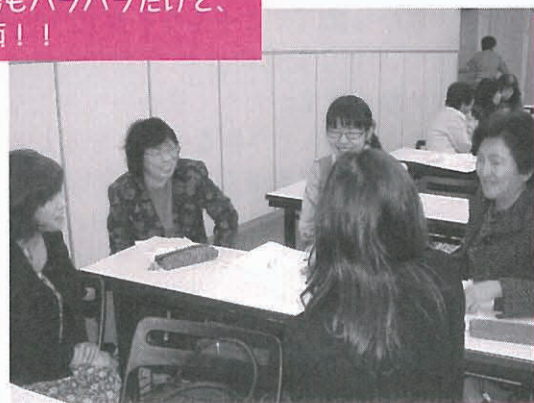


- S47 聖路加看護大学卒業
- S49 立教大学大学院修士課程修了(社会学)
- H 6 東洋大学大学院博士課程修了(社会福祉学)
- S49 聖路加国際病院看護婦・保健婦
- S53 聖路加看護大学講師
- S56 東京都東村山保健所保健婦
- S63 日本赤十字看護大学講師
- H 4 国立公衆衛生院公衆衛生看護学部看護技術室長
- H 5 厚生省保健指導室長(保健指導官)
- H11 国立公衆衛生院公衆衛生看護学部長
- H14 国立保健医療科学院公衆衛生看護部長
- H20 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻教授



年代も、職場もバラバラだけど、
こんなに笑顔！！

平野先生の講演後、「今後どのような活動をしていきたいか」をグループに分かれて話し合う時間を持ちました。「保健師のコミュニケーションが大切」「合併して地区のイメージが持ちにくくなった」など、保健師のあるべき姿や日頃の悩みなど自由に意見を出し合い、短い時間でしたが保健師同士のつながりの大切さを感じる、充実した時間でした。



〈交流会開催しました！〉

設立30周年記念でもあり、研修会後交流会を開催しました。講師の平野先生は、急な仕事が入ってしまい欠席になってしまいましたが、在宅保健師「つゆくさの会」の皆さんを囲んで、昔の保健師活動をお聞きしたり、今の保健師への熱いエールをいただきました。

アンケートの結果から

参加者の感想を年代ごとにまとめてみました。

20代

- まきこまれることから逃げない、待ってはいけいない、週一回でも地域に出ると決める。
- 個を大切にすること再確認。
- 地域に出向くという大切さをあらためて認識できた。
- 地域に出て住民と関わって地域を感じてよかったと思います。
- 先輩保健師の意見や他市町の意見を伺え参考になった。
- 自分の活動に自身が持てた。
- 先輩方の話を聞いて同じような悩みを持っているということが分かった

30代

- 個別を大切にすること再確認。
- 保健師活動の大切なことを講話やグループワークで深められた。
- 個の支援の積み重ねが事業開発につながるという話を聞き、個の支援を大切にしていこうと思った。
- 今の職場で自分の出来る事を考える。
- 保健師活動の原点を振り返ることが出来た。
- 保健師の活動について後輩に伝えて行きたいです。

40代

- 保健師活動の考え方の原点に帰れたと思います。
- “あるべき姿を描く”こと、個でも地域も組織にも同じことが言えるのではないだろうか。
- 「どんな保健師になりたいか」考える機会となりました。有難うございます。
- 保健師活動の大切さを再認識できた。
- 個別支援を真摯に丁寧に行い積み重ねることが原点だと思った。
- 地区に出ることより集団指導が多くなっているが、やはり地区を知ることが必要のため地区に出たいと思うようになった。
- 専門部署ではなくてもまず話を聞き繋ぐ。保健師の活動は見て繋ぐ、動かす、作る、見せる。

50代

- 地区活動することが目的で事業を行うことではない。更に自分自身のありたい姿、住民のありたい姿をイメージし実現できるようにすること、いつでも地域住民に対し責任を持って担当しているということを伝えられていくかなど、保健師のあるべき姿が見えてきて共感できることが多かった。
- 保健師活動の視点。「現場に出て五感で見る」この言葉は今の活動にジーンとしました。
- 保健師としてのありたい姿について考える機会となり少し整理できた。
- 保健師としての視点、保健師同士の繋がりが大切。

「つゆくさの会」会員からのメッセージ

- 保健師活動は、社会活動が変化してもその原点は変わらないと思う。
あるべき姿を追って 夢を持って頑張る

- できるだけ地域に視点を置き地域に出てほしいです。ケースを訪問するついでに地域の中の情報を自らの足で歩いてつかんで行ってほしいと思います。保健師の姿が地域の中で殆んど見られない現状が伺えますので…。

自由意見

- 保健師二年目になり保健師の仕事とはなんだろう…と悩むことが多い毎日を過ごしております。今日の講話を聞いて“保健師とは”ということを改めて考えました。何だか地区に出たくてウズウズしてきました。
- 栃木県市町村保健師も含む県全体の保健師で保健師の伝承をしっかりとしていけるシステムを築くことが必要と感じる。自分たちの職場でのディスカッションをしっかりとしていく事が本当に大切と思った。
- 私は地区を持たない部署に配属になっておりなかなか訪問の機会というのはありません。しかし私達がやっている事務作業なども地域で繋がっているのだということを改めて実感しました。今出来ること、そして今しか学べないことを学んでいき、先輩の電話の対応や窓口での対応などを見て吸収し仕事に生かしていきたいと思いました。
- 保健師の若手(経験年数の浅い保健師)研修を開催して欲しい。他市町の交流、保健師同士の交流の機会が欲しい。
- 私は保健師になり15年目です。中堅で業務の多様化、住民のニーズへの対応など保健師とは…と自信をなくすことも多い毎日です。本日の研修で遠い昔に学んだ学生の頃の保健師のあり方が今も正しいことが実感でき月曜日から仕事へ元気に行けそうです。
- 時代の変化とともに保健師の在り方は変えていかなければいけないのだろうか…と思っていたところに今回の研修でした。法の整備で保健師の業務であったことが変わってきているという再認識ができました。でも保健師のコアな部分はいつになっても変わらない。とても心強いお言葉でした。
- 保健師間の日常的な言葉の掛け合い、訪問に行った後こうだった、どうだった、こう関わったがどうだったんだろう、というやりとりができる職場であることが大切というお話もその通りだと思いました。



平成21年度「先進的な地域保健活動モデル事例」報告

那須町保健センター 山田 則子

昨年度、全保協が、「多様化する市町村保健事業における保健師の在り方に関する調査」を実施した結果、①市町村として明確な目標を持つ、②保健師としての活動方針を明確にする、③中堅保健師を含めた保健師教育体制を整備・推進する、④職場内のコミュニケーションを活性化させる、ことが保健師が多様化する市町村保健事業に対してポジティブに取り組むことがつながるものとの提言がありました。

那須町では、栃木県市町村保健師業務研究会の推薦を受け、下記の事業について報告いたしましたのでご紹介します。

活動名 「きらピカジュニア育成事業」

【目的】 ①子どもたちが自分の健康に関心を持ち、健康について学びながら生活習慣を整える力を育成するとともに、自分のみならず友人や家族へもその大切さを伝え、家族や地域が生活習慣病予防が実践できるよう支援する。②学校や地域が連携し、子どもたちが生活習慣病予防の実践に取り組めるよう支援する。

【対象者】 那須町の小学校5年生(各学校の代表者、各校4名程度)

【実施内容】 ①児童への健康教室の実施、②学校での啓発活動、③学校・地域保健との連絡会議

【活動にあたって工夫した点】 ①町内には13校(中・小規模校)があるが、全小学校の5年生が集まる場として、子どもたちに「自校からの代表である」という意識を持って取り組むことを目指した。また、那須町は中・小規模校ばかりであるので、大勢の中で学ぶ機会の提供にもなる。②上記の意識を持って参加するので、教室参加後も自分の学校内活動を積極的に活動できることにつながる。③継続的に実施しているので、学校内でもこの事業の認知度があり、下級生の意欲向上につながる。また、教育委員会の理解のもと全校対象に実施しているので、学校保健活動の理解が進み、養護教諭の先生たちの主体性が向上する。

【今後の課題と展望】 この事業により、学校保健との連携が深まり養護教諭の先生方が主体的な活動が深くなったように思われる。乳幼児期から学童期、思春期へとつながりを意識し、地域へ深められたらと思う。しかし、まだまだ、目的にもある「家族や地域が生活習慣病予防の実践ができるよう支援する」という実感までには至っていないので、今後の課題である。

ミニ情報

第29回関東甲信静地区市町村保健活動業務研修会のお知らせ

標記研修会を下記のとおり開催いたしますので、皆さま奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 期 日 平成22年11月18日(木)～19日(金)
2. 場 所 宇都宮ポートホテル
〒321-0953 宇都宮市東宿郷2-4-1
TEL: 028-632-7777
3. メインテーマ 「次世代へつなぐ保健師活動とは」
～紡いできた保健師魂をいかに伝承していくか～

役員紹介

今年度の役員につきましては、「平成21年度栃木県市町村保健師業務研究会総会議案書」(P39)をご覧ください。

◆◆◆編集後記◆◆◆

昭和53年に国保保健婦が市町村保健婦に移管したことで、栃木県市町村保健師業務研究会を発足し30年が経過しました。当初、会員だけで運営していましたが、栃木県国民健康保険団体連合会に当研究会の事務局を設置していただいたのが平成15年でした。現在では2名の担当者が当会の運営にご尽力いただいています。先輩方から受け継がれている当研究会の前進・発展に向けて、皆様のご意見等を役員・事務局までお寄せください。お待ちしております。

今年はいろんな事に“とら”イしてみましよう！



(青木 記)